

小川駅西口公共床の基本設計レイアウト（案）について

1 これまでの経緯

市は平成30年度から令和元年度にかけて、小川駅西口地区市街地再開発事業公共床（以下、「小川駅西口公共床」という。）の基本計画策定を市民参加で検討してきました。

具体的には、ワークショップ形式の小川デザインカフェ、利用者・利用団体ヒアリング等の小川デザインプロジェクトでの様々な意見を基礎資料として検討を行い、令和元年12月には「小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画」（以下、「基本計画」という。）を策定しました。

令和2年度は、令和元年度までの取組を基に基本設計を行います。

本来であればワークショップ等で市民と意見交換を行うところですが、4月7日の国の緊急事態宣言の影響を考慮し、基本計画等に基づく具体的配置等について、ホームページ等により、広く市民から意見を募ってまいります。なお、この意見募集は小平市公共施設マネジメント推進計画で示す基本設計における市民参加の一環として実施します。

2 レイアウト検討の要素

レイアウトを検討するに当たり、主に以下の要素を踏まえました。

(1) 基本計画

基本計画の以下の点について検討しました。

- ① 生涯学習（公民館、図書館）機能のほか、市民活動支援、男女共同参画のそれぞれの機能は縦割りに独立したものでなく、一体的な新しい施設となることを目指す。
- ② 新しいタイプの公共施設へのチャレンジとして、ビジネスパーソンや学生にとっての利便性向上、大学や企業と連携した公共床の活用など、再開発ビルの1階から3階の商業・業務施設、周辺地域の資源等も含め、回遊や滞在による、にぎわいの創出を目指す。
- ③ 市民の利便性向上のため、行政の出張所窓口機能を配置する。現在の西部出張所と同等の機能・事務スペースを設けることを基本とする。
- ④ 図書館機能や公民館機能、市民活動支援や男女共同参画等の運営のための事務スペースを設ける。
- ⑤ 図書を閲覧するためのスペースとして、本に囲まれた居心地の良い空間を設ける。
- ⑥ 西部市民センターや小平元気村おがわ東から移転する機能のほか、コンセプトを踏まえた付加価値的な空間を設ける。
- ⑦ 様々な人や世代が気軽に集い交流する場として、フレキシブルで多目的に使えるフリースペースを設置する。
- ⑧ 憩いの場として、軽食のできるスペース（カフェ等）を設置する。
- ⑨ ダンスや音楽などの活動をするため、一般的な防音機能を備えたホール（フラットで広めの多目的室）を、5階北西側に設置する。また、中高生等の居場所として、バンドやダンスの練習等ができる防音室（スタジオ）を設置する。
- ⑩ 学習室、講座室、集会室等、市民が利用する部屋の機能を保持しつつ共用化・多目的化を図る。
- ⑪ 施設内の各機能の配置については、可変的な空間設計などの工夫を行う。

(2) 小川デザインカフェ等

小川デザインカフェの以下の意見等を踏まえ検討しました。

- ① 本が色々な所にあり、各機能が混ざり合う配置とする。
- ② 4階には事務スペースや図書貸出機能など行政サービス機能を配置し、図書スペース内にカフェ等を配置する。5階のフラットで広めの多目的室は可動式の間仕切りで多様な活用を可能とする。
- ③ 4階から5階を吹き抜けにすることで本が繋ぐようなイメージとする。
- ④ 通路幅を広くし障がい者が通りやすい空間とする。
- ⑤ 4階には、子どもを中心とした空間と総合案内案内窓口も配置する。5階には、音楽会なども行える多目的の設置とコワーキングスペースも配置する。
- ⑥ 4階を静ゾーン、5階を動ゾーンとし、4階には子どもや高齢者に関する機能、総合案内窓口や出張所を配置し、5階には富士山を見ながら活動ができるように公民館的な機能を配置する。
- ⑦ 4階にはエントランス機能やギャラリー機能、子どものためのスペースやカフェを配置し、5階は全体的に大人の空間として多目的室を配置する。
- ⑧ 効率化のために印刷機を共同で活用する。

3 レイアウト説明

(1) 全体コンセプト

施設全体はなるべく壁などで仕切らないオープンなスペースとすると共に、書架を各階に設け、施設全体を本に囲まれた空間としました。また、吹抜けと内階段を中心に設けることにより各階に連続性を持たせ、視覚的なつながりをつくり、相互利用を促進するようにしました。

多目的室の壁は、カーテンで目隠しもできるガラス張りの部屋とすることで、中の活動が見ることができ、市民活動に興味のなかった人々にも活動内容を感じてもらい、自分自身も活動してみたいと思うきっかけになります。また、これまでより座席を多く配置し、居心地の良い空間を作ると共に、ゆったりと勉強したい学生や、パソコンを持ち込んで仕事をしたいビジネスマンなどにも付加価値のある個人向け貸し出しスペースを提供します。

公民館や図書館で行う講座、講演会、音楽会、公民館まつり等を通じて、市民同士の交流、仲間づくり、趣味、娯楽、憩いの場を設けるとともに、次の時代の公共の担い手として、身につけた知識・能力などを社会還元する、地域課題の担い手育成の場を展開していきます。

このように、公民館や図書館のような生涯学習機能と市民活動支援、男女共同参画の機能を複合化することで、多世代の多様な活動が重なりあう施設とします。

4階は、総合受付、カフェ、ギャラリー、児童書架、キッズスペース、フリースペース、出張所等を配置しました。フリースペースを中心とした開放感あるスペースとし、イベントスペース等として活用することができる空間としました。

児童書架、お話し室、キッズスペースをまとめて配置することで、一体的に利用できるようにし、子育て世代が利用しやすい配置としました。

5階は、一般書架、多目的室、個人向け貸し出しスペースを配置しました。

多目的室などをガラス壁とすることで、開放的な空間とし、図書利用者にも活動の様子を発信することができます。また、一般書架の一部にガラス壁で区画された静かな閲覧室を設けることで、利用者が本を読む環境を自由に選択できるようにしました。

多目的室は、利用人数や活動用途にあった広さで利用できるよう、可動間仕切りを設けるなど可変的な空間設計としました。

(2) 4階コンセプト

◆キッズスペース

これまで音に配慮する必要から図書館の利用を控えていた子育て世代の利用促進につなげるため、子どもが楽しく遊べるキッズスペースを設置します。副次的な効果として、にぎわいの創出のほか親同士の交流による悩み相談や情報交換、生涯学習や市民活動への興味喚起、1階から3階の商業フロアに対する波及効果があります。

また、講座時一時預かりスペースを隣接することにより、講座等での子どもの一時預かり時にキッズスペースを活用することができ、子どもが飽きることなく時間を過ごすことができます。幼児用トイレ及び授乳室を隣接させることで、子どもから目を離さず見守ることができます。

◆児童書架コーナー・お話し室

子育て世代の図書館の利用促進につながるよう、キッズスペースの隣に児童書架を配置しました。一般書架を5階に配置することで、音に対する心理的な負担を軽減するレイアウトにしました。

また、児童書架とお話し室が隣接することで、お話し室の未利用時に本を持ち込んで読めるなど、一体的な利用ができるようにしました。

◆交流スペース及び団体活動スペース

印刷室と隣接させることで、一体的に利用することができ、公民館活動、市民活動及び男女共同参画活動におけるちらし作りの利便性に配慮しました。

◆カフェ

憩いの場としてのカフェを、利用しやすいよう4階入口付近に配置しました。雑誌コーナーと一体化し、雑誌を読みながら過ごすことができるようにしました。

◆ギャラリー

市民活動の成果を発表する場として、ギャラリーを設置しました。場所は、人目につきやすい4階入り口付近に配置しました。展示期間中の展示品の保管を考慮し、格子シャッター等で仕切れるようにします。

◆防音スタジオ

中・高校生の居場所として防音スタジオを設けました。防音スタジオは音の配慮が必要なため、図書館等から離れた4階東側の位置に配置しました。

◆フリースペース

生涯学習や市民活動に関する打合せ等を行う場として、また図書館の本を読むための場所として、広めのフリースペースを設置しました。

また、市民活動の発表やイベント時の客席としても利用できるほか、子どもや学生、子育て世代、高齢者やビジネスパーソンの居場所、交流の場としての役割を果たします。

(3) 5階コンセプト

◆一般書架

5階の中央に一般書架を配置しました。周囲に多目的室を配置することで、本と多様な活動が重なりあう空間とします。

また、一般書架の一部にガラス壁で区画された静かな閲覧室を設けることで、利用者が本を読む環境を自由に選択できるようにしました。

◆多目的室

5階中央に一般書架を、周囲に多目的室を配置することで、お互いの活動を身近に感じることができる配置としました。

◆個人向け貸し出しスペース

落ち着いた環境で個人でも利用できるワークスペースを設置します。個人の書斎のように使えるよう、ゆったりとしたスペースに電源やW i f i 環境を整備します。